

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 52

2024年12月17日(火)発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

「NPO 法人小平井戸の会」に入会しませんか

## NPO 法人小平井戸の会 事務局長 鈴木八朗



NPO 法人小平井戸の会

メール: [idonokai@gmail.com](mailto:idonokai@gmail.com)

ホームページ: <https://www.kodaira-idonokai.tokyo/>

☎: 080-6689-3097 (代表: 金子)



「NPO 法人小平井戸の会」は、今後 30 年以内に 70% という高い確率で発生が予想される多摩東部直下地震や立川断層帯地震にそなえて、誰もが日常生活に必要な水の入手に困らないよう近場に井戸のある住環境の実現をめざしています。ご入会いただき目的に向かって私たちと一緒に活動しましょう。

### ■活動の大きな目的

首都直下地震に備えて

・井戸の価値を知ってもらうこと・井戸の実態を知ってもらうこと・井戸を守り活かしてもらうこと

◎能登半島地震、熊本地震にて断水により多くの住民が水不足に苦労されました。特に生活用水(トイレ等)は深刻でした。トイレを我慢したばかりに病気になり亡くられた方もいます。(災害関連死) その際には古井戸を直して使用、お寺では新しく井戸を掘るなど井戸が災害時の生活に役立ちました。

「生活周辺に震災対策用井戸はありますか？」

### 小平西地区地域ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加しませんか？

### 1. 小平市の井戸の実態

<民間(個人、法人等保有)>

①震災対策用井戸(防災マップで表示)	約 120 基
②使われているが①に指定していない井戸	約 110 基
③使用されていない井戸	約 40 基
④その他埋められた井戸等	約 70 基
	合計約340基

※②、③、④については小平井戸の会で確認しているものです。

▼小平市の公園、避難所(学校等)には井戸はありません。

### 2. 「NPO 法人小平井戸の会」の活動内容

#### ①定期的な「井戸調査」

・震災対策用井戸の利用状況の確認  
・利用されていて災害対策用井戸に登録されていない方へのお願い、等

②井戸の必要性を伝えるために「出前講座」の実施  
ご興味のある方は上記にご連絡ください。

### 《会費について》

☆正会員(年会費:2,000円)

会の活動にご協力いただける個人

☆賛助会員(年会費:個人1,000円、法人3,000円)

会にご支援していただける個人、企業、団体

☆井戸の友会員(年会費:無料)

会の趣旨にご賛同していただける井戸をお持ちの方

# 「はじめまして、コトカラです」

## コトカラ メンバー 関谷 園子

私たち「コトカラ」は、鷹の台のまちづくりを行う市民活動団体の活動で出会い、今ある鷹の台の魅力を活かしながら、空き店舗で閉まったシャッターを減らして賑わいを取り戻し、いつまでも暮らしやすい街にしていきたいと考えています。そして、鷹の台エリアにある寄り道できるスポットを、街の人たちにもっと知らせていきたいという思いから、地域の店主さんや周囲で活動する方々と共に、賑わい作りや居場所作りなど、今できるコトカラ活動を始めてみようとして2024年に発足しました。

最初のきっかけは、昨年末に「やぎさんのジューススタンド」さんで行われたクリスマスマーケットの会場の装飾を作るお手伝いをしたという、店主さんとの交流から始まりました。

賑わい作りには、鷹の台近隣の人々や大学生、お店が関わりながら賑わいを作る仕組みを考えたいと考えています。店主さんや活動されている方々の、やりたくても手の回らなかったことを実現するお手伝いや、この人と一緒なら実現できそうという方との新たなつながりを作る支援を軸に活動しています。

具体的には、「ミセノワ」という鷹の台エリアの店主さん同士やこれから開業する店主さんの交流の場を7月に開催しました。一人店主さんが多いこのエリアで、聞きたくても機会がなかったことや気になっていたことなど、それぞれの考えをざっくばらんに話しをする場として、またこんなコトがあったら良いなという雑談から、こんなコトなら協力できると行動に繋げていく場にしたいと思っています。



またこんなコトがあったら良いなという雑談から、こんなコトなら協力できると行動に繋げていく場にしたいと思っています。

次に、「ミセノワ」

で出た話をきっかけに、武蔵野美術大学の学園祭期間に合わせ、地域にアートやものづくりの魅力を共有・発信し、学生や卒業生、地域の作り手が会する「鷹の台森の市場」というクラブイベントも10月に実現しました。

〈イベントの写真〉



11月には、玉川上水沿いに新しくオープンしたギャラリー&コミュニティスペース zoeee (ゾーイ)で、コミュニティスペースとして今後活用していく第一歩として、島根県のコミュニティーナースの活動を参考にした「鷹の台おせっかい会議」を開催しました。地域でボランティア活動やコミュニティ活動をされている方々のお話を伺い、我々自身の学びにもつながる経験となりました。

〈おせっかい会議の写真〉



〈インタビュー時の写真〉

さらに、鷹の台を楽しくする WEB 伝言板「タッタカ伝言板」の寄り道したくなるホットスポットを紹介する記事の取材活動もしています。

タッタカ伝言板 WEB サイト

<https://tattakatan.studio.site/>

今後も微力ながら無理せずできるコトカラをモットーに、鷹の台エリアがいきいきとずっと暮らしやすくなるよう活動していきたいと思っています。

コトカラのインスタグラムアカウント

@kotokara.takanodai

## 第53回懇談会報告

# 「NHK『虎に翼』と白梅学園のかかわりは？」

## 草野篤子

9月24日(火)J14教室(対面)とオンラインで、「NHK『虎に翼』と白梅学園のかかわりは？」というテーマで、小平西地区地域ネットワークの懇談会が開催されました。

講師は、白梅学園大学学長の小玉重夫氏、社会教育協会理事の金子尚弘氏です。最初に、小玉学長から、『虎に翼』に主人公の恩師として登場している穂高重親のモデルになっている穂積重遠は、白梅学園の前身である東京家庭学園の初代学園長であったことが紹介されました。1925年(今から99年前)に、小松謙助は穂積重遠と共に、財団法人社会教育協会を設立しました。そして第2次世界大戦の最中であるにもかかわらず、1942年に社会教育協会の一環として東京家庭学園が設立されたのです。

主人公の虎ちゃんのモデルになったのは、日本史上初めて女性で弁護士となり、裁判官になり、家庭裁判

所の長官になった三淵嘉子です。三淵は1963年の原爆裁判にも関わり、原子爆弾の投下は無差別爆撃であり、国際法から見て違法な戦闘行為であると述べています。また、1973年には、尊属(父母や祖父母などを直系尊属といい、自分より前の世代で、血のつながった直系の親族です。法律上の親となる養父母も含まれます)殺の重罰規定違憲判決にも関わっています。刑法200条は、憲法14条の法の下での平等に反するということです。また、少年法の18歳への改正(改悪)等には、家庭裁判所ぐるみで強く反対しました。

社会教育協会理事で、本学名誉教授の金子尚弘氏は、来年、社会教育協会が創立100周年を迎えること、その歴史の紹介、加えて、協会の目的と事業として、我が国最古の社会教育推進機関として、社会教育並びに生涯学習の振興・普及を図っていることを報告されました。この日は、J14教室が参加者で一杯になりました。

## 白梅祭で歌って

### 一歌は誰でも持っている楽器、歌はだれでも歌える一

### 宮本美子(コミュニティサロン第二きよか世話人)

「誰もが知っている歌を声を合わせて歌えば心も一つになります」をキャッチフレーズに始めた『きよかコーラス』がいよいよ白梅祭(10月19日)のステージに乗ることになった。板の上に乗るのが初めてのメンバーばかりなのでハラハラドキドキ。わが夫も歌いながらちよろちよろ動き回るので舞台上は大混乱。名司会で何とかまとまった。曲目は第二きよかで「さあ、じゃあ今日も大きな声で一曲歌ってから帰ろうか！」と思いつくままに選んだ。

- ・卒業写真 松任谷由実(ユーミン)
- ・少年時代 井上陽水
- ・ふじの山 巖谷小波(いわやさざなみ)
- ・小さい秋見つけた(中田喜直)
- ・見上げてごらん夜の星を(永六輔、中村八大、坂本九:6・8・9コンビ)
- ・アンコールとして『上を向いて歩こう』

『上を向いて歩こう』は坂本九のCDを持っていたのでそれをかけて歌った。「本物を聴くに優る教育なし」の音

楽教育の原理にのっかって、これが当たり前。舞台上もよく声が出て会場も揺れていた。何しろ前日準備の時に学生に「ねえピアノがどこにあるのか知っている？」と声をかけてみても「いやあみたことない」の返事。アコーディオンカーテンの奥に隠れていたグランドピアノは、リフターもなしで動かさず、私の電子ピアノを持って行って良かった！このあと11月のきよかでは白梅祭のステージの話で大盛り上がり。なんと出演者から5曲もリクエストが出てしまった。「翼をください」、「イマジ」オールドブラックジョー」他。

私の構想ではわらべ歌『おせん』『ふるさと』『浜辺の歌』と『歌の翼』の比較研究。『瑠璃色の地球』『今日の日はさようなら』『春の小川』『踊りあかそう』『歓喜の歌』…と次々と局が浮かんでくる。今年の春『卒業写真』を歌って帰る時のみんなのうれしそう顔にこちらがぼかんとするくらいだった事を忘れずに歌い続けたい。「きよかコーラス」をよろしく。

# 「秋のふれあい交流イベント おがワンフェスティバル 2024」を開催いたしました！

## 川野 晴紀(地域包括支援センター小川ホーム)

秋空の温かいお天気の中、10月27日に「秋のふれあい交流イベント おがワンフェスティバル 2024」を小川ホームにて開催いたしました。当日は400名を超える地域にお住まいの方にお越しいただき、どのブースも盛況となりました。

このイベントは、“誰もが安心して暮らせる小川西町を考える会(みらい)”のなかで「地域のなかで活動している方はたくさんいるのになかでつながれない、どんな人が活動をしているのか知らない」といった意見が開催のきっかけとなりました。この意見に対し、小川ホームの場所を使っただけで地域にお住まいの方と団体の方がつながるようなイベントにしたいという思いを込めて開催に至りました。



コロナ禍以降2回目の開催となった今回ですが、昨年以上にたくさんの方にご協力いただきました。ショップでは、毎年人気のバザーを行いました。事前に寄付を募ったものを(みらい)の方と協力して値付けをして販売しました。今年も使われなくなってしまったものをたくさんの方の手に届けることができました。他にも障害を持った方が働いていくための作業所にパンやスイーツ、小物などを販売していただいたり、冷凍食品や被災地応援グッズの販売もありました。

飲食では、ガールスカウトや自治体の方がポップコーンやたこやきをふるまってくださいました。バンブー料理の出店もあり、日本とは異なる文化の味も楽しんでいただきました。小川ホームからのミニカレーも好評

でたくさんの方に食べて頂くことができ完売となりました。

展示では、小川ホームで暮らす高齢者が余暇活動として作成した作品を展示しました。クオリティがかなり高く、「これは買えないの？ 玄関にかざりたいんだけど」と参加者の方に声をかけられることもありました。また、白梅学園大学教授とそのゼミ生による「ヤングケアラー相



談室」や、保護猫に関する活動をされている方々にも来ていただきそれぞれの現状などを知ってもらえる場となりました。当日に直接相談があったり、住民の方と団体の方がつながる事ができた

ようでのイベントを開催にあたった思いが実現できてうれしく思いました。

体験では、白梅学園大学の学生による白梅子育て広場「出張あそぼうかい」を行っていただきました。子どもだけでなく、高齢者の方も参加していただき幅広い世代の方が楽しめるブースとなりました。緑成会病院やハワイアンマッサージのブースもあり、体を労わる機会にもつながりました。「ふれあいステージ」では、人形劇、日本舞踊、ギター演奏、バンド、小平いきらく体操など、様々な催しを楽しんでいただくことができました。

世代や文化の垣根を越えてたくさんの方に楽しんでいただくことができたイベントとなりました。今回も準備から当日の運営まで地域の方々のたくさんのご協力によって無事終えることができました。本当にありがとうございました。

来年もお楽しみに！

# 小川公民館まつりを開催しました

## 伊東泰則(小川公民館館長)

今年の4月から小川公民館分館長を拝命いたしました、伊東泰則(いとうやすのり)と申します。3月までは小川西町公民館で1年半程分館長をしておりましたので、引き続き小川西地区地域ネットワークに参加させていただいております。



去る11月2日、3日の2日間で第52回小川公民館まつりを開催いたしました。初日は熱帯低気圧になった台風21号の影響で雨天だったため、公民館の外に看板やテントを設置することができず、地域へのPRが思うようにできませんでした。それでも公民館利用サークルの作品展示や舞台発表はもとより、小川保育園園児と小平第一小学校児童の作品展示、小平第一小学校の児童によるよさこいや、武蔵野美術大学アトリエちびくろによるスノードームづくり体験、地域宣伝隊コダレンジャーショーなど、地域の方々による催しを中心に行い、多くの方にご来館いただきました。2日目も初日に引き続

いての展示等を行い、午後には武蔵野美術大学ご出身の日系ブラジル人落語家のらむ音さんの落語会を行いました。全体的な来館者数は昨年度よりやや少なくなりましたが、ご来館くださった皆様には非常にご満足いただけたと自負しております。



次回以降も地域の皆様とともに進めていくという気概で小川公民館まつりを運営し、地域の繋がりづくりや、公民館という社会教育施設に足をお運びいただくきっかけにさせていただけるようにしたいと考えております。社会教育に携わるようになってまだ3年目ですが、社会教育には地域の方々との関わりが欠かせないと考えております。これからも皆様と一緒に地域を盛り上げていけたらと思っております。ぜひ公民館主催講座やサークル活動にもご参加ください。

# 小平市女性のつどいニュース 100号記念

～時代を越えて 世代を超えて 私たちの明日を語ろう～

## 日向美砂子(小平市女性のつどい会員)

第1回講師は市川房枝さん、そして20代の能條さんへ

小平市女性のつどいは「平等・開発・平和」を目標に活動する市民団体で、今年創設45年になります。1979

年から毎年、講演会を開催しており、第1回の講師は日本の女性参政権に大きく貢献した市川房枝さんでした。

発行するニュースが100号を迎えたことと併せた記念イベントでは、若者の政治参画とジェンダー平等をテーマに活動する能條桃子さん(NO YOUTH NO JAPAN代

表理事)を迎え、市川さんの運動に重ね、時代を越えて変わったこと・変わらないことを見つめながら、若い世代の思いを聞きました。

### 国民と政治家は鏡

能條さんは、公立小・中学校で真のあたりにした生まれ育った家庭による格差、進学高・有名難関大で感じた競争社会への疑問について考えるなかで、デンマーク留学の道を選びました。「社会をつくっているのは誰なんだろう?」という問いを胸に、デンマークで出会ったのは、若い世代が政治を自分事として捉え、声を上げ選挙に参加し社会をつくっているわくわくする現実でした。

「良い政治家がないということは、よい市民がないということ」というデンマークで受け止めた言葉を胸に帰国した能條さんは、「自分も行動しよう」と森元首相のセクハラ発言への抗議署名活動や立候補年齢を引き下げる運動、政治分野でのジェンダー不平等を解消する

プロジェクトなど精力的な活動を展開しています。NO YOUTH NO JAPANのインスタグラムのフォロワーは約10万人。多くの若者の支持を得ています。

### 共に民主主義の担い手に

能條さんのお話は穏やかでやわらかい口調ですが、とても説得力を持って心に届きました。社会としてどんな子ども若者を育てるか?の問いに、能條さんは「日本は勤勉な労働者、デンマークは民主主義の担い手を育てようとしている」と明確に言い切りました。私たち大人がどのような社会をつくらうとしているかに直結するドキッとする言葉です。

政治というとカネの問題やスキャンダルばかりが取り上げられがちですが、教育やジェンダー平等、私たちのすべてにつながることを20代の能條さんからあらためて伝えてもらい、世代を超えて共に未来をつついでいこうという思いを共有できた時間でした。

(11月24日小平中央公民館にて)

# 防災イベントに参加して

## 家族・地域支援学科 宮田 峻輔

2024. 11/9に白梅学園大学・白梅学園短期大学を会場に、白梅学園防災プロジェクト・小平市社会福祉協議会様・一般社団法人小平青年会議所の合同企画である防災イベントに参加しました。



午前中に行われた第一部は、災害ボランティアセンターについて(社会福祉協議会より講話)、【演習:災害ボランティアセンター設置のシミュレーション】小平市社会福祉協議会・小平 JC で連携し災害ボランティアセンター設置のシミュレーションに参加しました。午後の第二部は、一般参加者を対象にリアルな災害を

想定した避難訓練に参加しました。

私は、社会福祉協議会に興味があり今回のイベントに参加したのですが、地域との連携をして地域の防災意識を高める活動や学校と協力してイベントを開催していることがわかりました。青年会議所の方との協力により今回はとても良いイベントになり、青年会の方ともイベントを通して仲良くなれたと思いました。

私は土嚢作り体験と一輪車で荷物運搬体験の手伝いをしたのですが、高齢の方や小さなお子さんまで幅広い年代の人に体験を通して防災意識を高める活動をできたと感じました。

私は将来社会福祉士を目指している者として感じた点は、来場者の年齢層をしっかり把握してその年代のニーズに合わせたイベント作りが必要だと感じました。例えば子どもをメインとした場合は、今回のような起震車であったり遊ぶスペースを用意すること。他には、高齢者であった場合は、災害にあった場合の自助共助に着目したイベントや、災害ボランティア活動に積極的に参加して貰えるようなイベントにするのも良いと感じました。今回の経験を活かし、さらに地域の社会福祉を担えるよう、学びを深めていきたいと思っています。

# 「白梅子育て広場－あそぼうかい」に参加して

成愛里(ソン・エリ)

## 朝鮮大学校教育学部保育科 1 学年

朝鮮大学校は小平市のまさに「小川西」に位置し、白梅学園大学とは本当にご近所さんです。平素に学生同士のお付き合いとかはないのですが、白梅学園大学の先生が私たち保育科の授業を担当してくださっているので、心情的には「遠い存在」ではありませんでした。

そのようなこともあってか、朝鮮大学校保育科が「子育て広場」にもう 20 年参加していると聞いて驚きました。私は在日朝鮮人 4 世(曾祖父が渡日)ですが、幼稚園、小、中、高とずっと朝鮮学校に通ったので、あまり意識することはなかったけど、日本人の同世代の人との付き合いは「学校行事」やアルバイトの経験などをのぞけばほとんどありませんでした。

なので白梅の学生さんたちと一緒に行事を作り上げていく過程は、思った以上に刺激的で収穫の多いものでした。

子どもたちがいっぱい楽しんでくれるように力を注いでる感じがしましたし、装飾品作成などのレベルもみんな

高く、私たちも見習いたいと思いました。

当日はたくさんの子どもたちが来て、飾り付けられた部屋をみて喜んでくれたり、(秋をイメージした装飾の部



屋だったので自分の知っている秋について話してくれたりして、とてもうれしかったです。

今回の経験の中で「違い」

も感じましたが、何よりも、民族は違っても同じ幼児教育の専門家を志すものとして、今後も共に頑張りたいと思ったし、私たちにも白梅学園大学にはない良いものがあることもわかったので、今後行われる実習を通してもっと技能を磨いていきたいと思います。



(子育て広場終了後白梅学園大学・短期大学の学生と朝鮮大学校の学生合わせて150名で撮った写真です)

民族の統一を願って

金田利子

- ◇被団協ノーベル賞をおめでとう 核なき世界で半島一つ
- ◇悲しみに寄り添う文学おめでとう 祖国の分断奥に在るかも
- ◇税金は同じく払う在日に その見返りの差別はなぜに？
- ◇近くしてどこか遠くの朝大に 支部で訪問一歩近づく

## 皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～③)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

### お待ちしております!

#### ① ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜 10:00～16:00 (移転先検討中)

#### ② ほっとスペース第二きよか

毎月第1月曜 13:30～15:30 参加費 200円 (移転先:小平市小川町 1-755-2-106) 問合せ:瀧口優 TEL:080-3450-6878

\*2023年7月10日(月)「ほっとスペース第二きよか」がスタートしました。

\*第一もしくは第二月曜に実施しています。(今後の予定は、1月6日、2月3日、3月3日、4月7日)13時30分～15時30分です。

#### ③ カフェなかじま

毎月第1水曜日(祝日の場合は第2水曜日)13:30～15:30 中島地域センター 参加費 100円

#### ④「分かった会」小中無料学習教室

毎週木曜日 18:00～20:00 (小川公民館) 問合せ:奈良 勝行 (講師募集中!) TEL:090-4435-4306

9月からは火曜日にも中学校3年生用として開室しています。

### イベントの予定

- ・01月05日(日)11時～ だれでも食堂ゆらり
- ・01月26日(日)10時～ おがわん(小川ホーム)
- ・02月02日(日)10時～ だれでも食堂ゆらり
- ・02月23日(日)10時～ おがわん

### 西ネットの今後の予定

- 大学世話人会: 01月14日(火)18時～
- 地域世話人会: 02月04日(火)18時～
- 大学世話人会: 02月25日(火)18時～
- 地域懇談会: 03月08日(土)15時～

### 西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	大内智恵子・久保田進・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠 細江卓朗	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行

西ネットの世話人を募集しています。瀧口まで連絡してください。(takiguchi-masaru@iaa.itkeeper.ne.jp)

**お願い**: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

**投稿募集**: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: [ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp](mailto:ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp)

**編集後記**: 「小平西のきずな」も今回で51号を迎えます。52号では地域の新しい動きを取り上げてみました。西ネットのスタートから12年が経過していますが、今後も人と人をつなげることを柱に取り組みを続けたいと思います。(瀧口)。